

FT - IR 測定・同定の実際とアプリケーションテクニック・コツ

日時	HP、案内メールをご覧ください	会場：WEB 配信方式
受講料	49,500 円（税抜き、テキスト付）	
講師	ジャパン・リサーチ・ラボ 代表 博士（工学） 奥村 治樹	
受講対象	得られる知識、スキル	
<ul style="list-style-type: none"> ・実務担当者（企業、大学、公設試験所等） ・指導するリーダー、管理者 ・新入社員、若手 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種測定法の特徴と選択、測定技術 ・スペクトル処理・解釈の考え方 ・赤外分光法を用いた問題解決の手順 	
概要		
<p>赤外分光法は、研究・開発だけでなく工場でのインライン評価などにも幅広く一般に使用されている。しかし、実務でサンプルや問題に直面した場合に文献・教科書等では装置や測定法の原理は詳細に解説してあるものが多いが、そのアプリケーションとしての解説を十分に行っているものは少ない。</p> <p>本講座は、実務アプリケーション寄りの内容、実務での赤外分光法活用を中心とした。実際の分析操作やスペクトルの解釈、実際の分析において対象とすることの多い異物や混合物、様々な試料や目的への対応の方法、事例などについて、実務使用における測定技術や応用技術、ノウハウを解説する。</p>		
【赤外分光法の基本原理と特徴】 振動モード 気体と液体・固体 赤外分光法の長所・短所 赤外分光法による評価 主な検出器と感度特性 【代表的な測定法】 【透過法】 透過法基本セッティング 吸収の飽和、干渉縞と軽減法 【全反射法（ATR）】 パリアシオンと ATR 結晶 FTIR-ATR における測定深さ ATR 法における注意点 ATR 補正 【反射法】 反射法、高感度反射の原理 K-K（Kramers-Kronig）変換 【拡散反射法】 【その他の測定法】 【顕微赤外】 ラマン分光法との対比	【赤外スペクトル】 主な振動モードと吸収帯 主な有機系官能基の吸収帯 周辺環境の影響 イオン性官能基の吸収帯 赤外分光の構造敏感性 指紋領域の利用 カルボニル基の判別 スペクトルサーチ 検索アルゴリズムの限界 ヒットスコアの罫 スペクトルサーチのコツ 差スペクトル 混合解析 系統解析 帰属の考え方 【定量分析】 【大気成分補正】 【測定条件】 積算回数、分解能と影響 積算回数の考え方 誤差要因	【スペクトル処理】 ベースライン補正 スムージング・補間 ピーク高さと面積 【混合物の解析】 差スペクトルとピーク分離 ATR 法における差スペクトル 他手法との組み合わせ 【様々な試料】 バルク、フィルム、繊維 紛体、液体、 異物・微小部 汚染・付着物 黒色試料 【高次構造】 【水素結合】 【バルク（全体平均）分析】 【角度変化法】 【温度変化測定】 【FTIR における注意点】 【事例】 【まとめ】と質疑
お申し込み	https://analysis.ikaduchi.com/tsushin-form.html または HP お問い合わせより	

URL : <http://analysis.ikaduchi.com>e-mail : haru777@star.email.ne.jp